

1 学校教育目標

○思いやる ○自ら学ぶ ○やり通す

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学ぶ意欲を向上し、自らを鍛え学力を伸ばすことのできる学校 ○生徒の社会性を育成し、人と協力しながら課題を解決する力を身に付けることができる学校 ○地域・保護者との信頼関係を構築し、力を合わせて生徒を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒。 ○向上心をもって自ら学び、目標をもって最後までやりぬく生徒。 ○心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した生徒。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと深い愛情と情熱をもって指導にあたる教師 ○謙虚に自己研鑽に励み、強い責任感をもって生徒・保護者の期待に応える教師 ○組織の一員として連帯感をもちチームで教育活動に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校について [よさ] 閑静で落ち着いた地域環境と整った施設に恵まれ、充実した教育活動が展開されている。
 [課題] 学校の魅力づくりと学校からの情報発信（PR）の充実
- 生徒について [よさ] 明るく裏表が少なく人懐こい。諸行事等に意欲的に取り組む。
 [課題] 自分と社会のつながりに気づかず高い理想や夢に向かって努力しようとする気持ちや態度が十分に育っていない。
- 教師について [よさ] 生徒の立場に立ち、その成長のためによく努力する教員が多い。
 [課題] 経験の浅い若い教員が多いので、生徒指導力や学習指導力等の一層の向上が求められている。
- 保護者・地域について [よさ] PTA 役員・地域ともに協力的である。「地域の学校」との思い入れや期待がさまざまな場面で感じられる。
 [課題] コロナ禍の影響もあるが、保護者の学校支援（PTA 活動、授業参観・保護者会等の出席者数など）が減少している。

【前年度の成果と課題】

- 〈成果〉○落ち着いた学校生活と生徒・教員との信頼関係の構築
 - 道徳の授業を通しての豊かな心の育成
- 〈課題〉○基礎学力の定着と向上
 - 家庭学習の習慣化
 - 不登校生徒等への支援

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体験活動を通しての豊かな人間性や社会性の育成		○	○	○	○
3						
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と向上		年度末学力定着確認テスト 正答率60% 令和6年度区学力調査 通過率60%		R5区調査通過率 68.6% 年度末学力定着確認テスト 正答率 60.4%		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善とAIドリルの有効活用、家庭学習の充実を図る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・新規	授業力向上	全教員	年間	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察(年2回) 小中連携による授業研究(対面年5回) 授業見学週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 生徒アンケート 年度末学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答80%以上 年度末学力定着確認テストの正答率60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業アンケート 肯定的回答84.7% 年度末学力定着確認テスト 正答率60.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの肯定的回答のさらなる向上を図る。 11月に授業見学月間を実施した。 	○
2 継続	ICT・AIドリルの有効活用	全教員	年間	<ul style="list-style-type: none"> 5教科担当で活用方法の検討会の実施 数学の朝補習及び授業の導入時に活用 長期休業中の課題として活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答80%以上 80%以上の活用率 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業アンケート 工夫されている86.6% 数学・朝補習・長期休業中活用率100% 	各教科のICTの効果的な活用を掌握し、活用方法を全体に広げていく。	○

3 継続・新規	朝補習 朝学習 (+放課後補習)	全生徒	週4回 (定期テスト前4回)	<ul style="list-style-type: none"> 朝 20 分間学力補充 AI ドリルを活用した朝学習 定期テスト前に放課後補習教室を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト 年度末学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト正答率 70%以上 年度末学力定着確認テストの正答率 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト正答率 70%以上 12 回中 9 回達成 年度末学力定着確認テスト 正答率 60.4% 	朝補習・朝学習・朝読書・補習教室を計画通り実施できた。	○
4 継続	家庭学習の習慣化	全生徒	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で家庭学習ノートの有効活用について指導 授業の振り返りを基にできなかった内容の克服、重要ポイントの復習 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出率 生徒アンケート 学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 提出率・生徒アンケート結果 10%向上 年度末学力定着確認テストの正答率 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習ノート提出率 95%/週 年度末学力定着確認テスト 正答率 60.4% 	ノートの提出率や家庭学習の習慣は向上しているが、今後は学習内容の充実を図っていきたい。	△
5 継続	サマースクール	対象・希望生徒	夏季休業中6日間以上	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 学習の習慣化 AI ドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前テスト 事後テスト 	事後テスト 正答率 10%向上	中一数学事後テスト 正答率 ほぼ横這い	各学年の課題（教科・希望 or 指名制）に応じたサマースクールを実施できた。	○
6 継続	年度末学力確認・補充	1・2年全生徒 国・数・英	2月初旬～3月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 2月上旬学力定着確認テストを実施 学力定着が不十分なところを授業・朝・放課後等で補充 	<ul style="list-style-type: none"> 学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末学力定着確認テストの正答率 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末学力定着確認テスト 正答率 60.4% 	2月後半から3月及び春休み中を使って補う。	○

重点的な取組事項－2		体験活動を通しての豊かな人間性や社会性の育成					
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
自尊感情・自己肯定感の向上		生徒のアンケートの肯定的回答 70%以上		区意識調査「自分には良いところがあると思う」（国：69.8・本校：73.0）「努力すれば、自分もたいていのはできると思う」（国：83.0・本校 84.6）		学校・学年だよりや全体講話での声掛けや生徒の主体的な活動の推進によりクリアできた。	○
B 目標実現に向けた取組み							
項目	達成基準		具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度

自尊感情を高める指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケートの肯定的回答70%以上 生徒主体の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の生徒・児童交流の実施(中学校体験、部活動交流等) 学習コンテストや各大会上位入賞者等の表彰や掲示 生徒会による主体的な活動や学年リーダーによる学年行事の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「自分には良いところがあると思う」73.0% 「努力すれば、自分もたいていのことはできると思う」84.6% 学校行事は生徒主体の実行委員会制度で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 達成基準をクリアすることができた。 生徒会を中心に生徒の自主的・主体的な活動を推進していく。 	○
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」50%以上 「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」60% 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科で言語活動を取り入れた工夫ある授業の実施 生徒集会の充実(発表場面の設定) プレゼンテーション面接の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」54.8% 「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」67.6% 生徒会主催の全校生徒参加の交流会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 教科・総合の授業や特活時に発表し合う機会を多く作り、クラス・学年・全体と規模を大きくすることにより能力を伸長することができた。 	○
特別な支援が必要な生徒及び不登校生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> SC・SSW・関係機関と連携した不登校状況の改善 不登校生徒数昨年度比80% 	<ul style="list-style-type: none"> QU及び教育相談研修会実施 週一回支援委員会開催 家庭との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> QU及び教育相談研修会3回実施 SC・SSW同席の支援委員会週一回開催 不登校生徒数昨年度比117% 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と十分に連携し、QUの分析等も活用して一人一人に寄り添った対応をとっていく。 	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

〈成果〉・落ち着いた学校生活と生徒・教員との信頼関係の構築

「学校生活は楽しいですか」(生徒アンケート肯定的回答率：93.3%)

「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」(生徒アンケート肯定的回答率：91.3%)

「時間を守って生活している」(生徒アンケート肯定的回答率：96.9%)

・豊かな心の育成

「道徳の授業は内容が工夫されている」(生徒アンケート肯定的回答率：94.5%)

「道徳や体験活動を通して、豊かな人間性や社会性が育っている」(保護者アンケート肯定的回答率：77.1%)

〈課題〉・さらなる基礎学力の定着と向上

・家庭学習の習慣化

「家では宿題や予習復習など、家庭学習の習慣が身についている」(生徒アンケート肯定的回答率：66.4%)

「家庭での学習時間は1時間以上ありますか」(生徒アンケート肯定的回答率：44.4%)

「子どもは家で宿題や予習復習をする習慣が身についている」(保護者アンケート肯定的回答率：58.5%)

- ・不登校生徒等への支援(不登校生徒数 35/305 人)と教育相談の充実
「学校での人間関係は良好か」(アンケート肯定的回答率:生徒 88.1%・保護者 75.8%)
「悩みや不安を相談できる先生がいる」(アンケート肯定的回答率:生徒 68.4%・保護者 58.6%)

【対策】・教員の学習指導力向上に向けた校内研修・小中連携研修を実施する。

- ・目的・学習意欲向上のため、キャリア教育について教員の理解をさらに深め全学年・全学級で様々な場面で展開できるようにする。
- ・SC や SSW、げんき等の関係機関と十分に連携しつつ、QU の分析等も活用して一人一人に寄り添った対応ができるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は、「学力・自尊感情・学習意欲・コミュニケーション能力の向上」を念頭に置いて取り組んで参りました。「学力」は昨年度からの取組を継続することにより大きく伸ばすこと(区学力調査通過率:昨年 59.5→今年 68.6)ができました。「自尊感情」に関しては、区の意識調査「自分には良いところがあると思う」(国:69.8・本校:73.0)「努力すれば、自分もたいていのことはできると思う」(国:83.0・本校 84.6)の項目で国の平均を上回る結果を示しています。「学習意欲」もアンケートの結果は、保護者・生徒ともども前年度よりも向上(保護者:+0.8・生徒:+2.4)しております。「コミュニケーション能力」に関しては、授業中等でプレゼンテーションの機会を増やし、区の意識調査「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」の項目で前年度を上回る結果(国:65.1・本校:67.6)が出ました。しかし、コロナ禍明けに伴い、今まで体験できなかった学校行事等による集団活動が活発になるにつれ「人間関係等による悩みや不安をもつ生徒」が増加しました。生徒・保護者に行ったアンケートの結果を真摯に受け止め、今回の数字を最低ラインとして改善し、さらなる向上を図って参ります。学校内では落ち着いた生活ができています。今後も、生徒・保護者・地域から更に信頼される学校を築き上げたいと思います。教育の効果は、信頼関係によって大きく左右されます。信頼関係のないところに教育の営みは存在しないと言っても過言ではありません。教職員には、『信頼は「人柄」「指導力」「教育愛(情熱)」の上に成り立つ』と伝えてあります。来年度も本校は、「授業力向上を常に考え」、カウンセリングマインドに基づく教育相談を通して「生徒の良さや努力をもっともっと認め」「生徒の悩みをしっかりと把握し」、キャリア教育・進路指導をさらに推進し「生徒の意欲的な学習態度の育成」に努めていきたいと考えております。

(3) その他(学校教育活動全般について)

子ども達がこれからの変化の激しい社会を主体となって生き抜いていけるように、中学校教育の担うべき役割の大きさを自覚し、日々の授業や様々な行事、部活動、委員会活動等に熱意をもって取り組んでいきます。前例踏襲は事実上の後退と考え、常に前年より改善を目標に効果的な対応策を考え新しい時代にふさわしい学校教育を進めていきたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。